

令和4年度 施策評価シート

1. ふじみ野市将来構想 from 2018 to 2030 における位置づけ

施策体系	分野	09 教育 ～地域の絆で育む学びのまち～					
	施策	39 文化財・郷土資料 ー歴史文化の継承と文化財の活用を進めますー					
重点プロジェクト							
主管課	教育部 社会教育課	評価責任者			山中 昇		
		評価日			令和5年6月1日		
関連課	学校教育課						
目標	地域の歴史・文化に多くの市民が興味や関心を持ち、歴史文化の継承がされるよう文化振興と文化財の有効活用を図ります。						
施策目標の実現に向けた取組	<p>(1) 文化資源の保護と活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ○市民の歴史や文化に対する意識の高揚を図るとともに、市民や関連団体との協働により更なる歴史文化の継承と文化活動を推進します。 ○地域の歴史を知る上で重要な文化財の調査及び記録保存を行い、展示や報告書の刊行、学習講座の実施などを通じてそれらの成果を発信します。 ○小中学校と連携し、文化財資料を活用した地域学習を推進します。 ○お囃子などの地域の無形民俗文化財の継承のため、保存会の活動を支援します。 ○市内にある有形文化財等、地域の文化資源を社会教育や観光などで有効活用を図ります。 						

2. 施策指標と達成状況

※網掛けの指標は前期重点プロジェクトに該当する指標です。

施策目標	指標1	指標名	歴史文化に係る学習講座への参加人数					
		説明	歴史文化に係る学習講座などに参加した延べ人数。市民の歴史文化に対する意識の高揚を図る指標となるため。					
		単位	人					
		年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
		目標値	1,700	1,700	1,700	1,700	1,700	1,700
		実績値	1,221	1,967	1,313	1,574	2,364	
	指標2	指標名	展示への来場者数					
		説明	展示会に来場した延べ人数。市民の歴史文化に対する意識の高揚を図る指標となるため。					
		単位	人					
		年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
		目標値	7,900	7,900	7,900	7,900	7,900	7,900
		実績値	7,082	6,581	9,253	11,339	13,046	
	指標3	指標名						
		説明						
		単位						
		年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
		目標値						
		実績値						
	指標4	指標名						
		説明						
	単位							
	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
	目標値							
	実績値							
指標5	指標名							
	説明							
	単位							
	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	
	目標値							
	実績値							

3. 施策への投入コスト

(単位：千円)

		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
支出	事務事業費	26,058	29,245	27,116	37,421	60,345	-227,052
	人件費	113,989	120,453	133,571	134,748	112,842	702,175
収入	特定財源	6,983	10,666	10,349	8,269	13,500	31,307
	一般財源	133,064	139,032	150,338	163,900	159,687	443,816

4. 評価対象年度の施策実施内容

※網掛けの指標は前期重点プロジェクトに該当する取組です。

		実施内容	実施実績と効果	主な事務事業
取組①	展示や学習講座の開催	特別展「武士の群像～ふじみ野の中世フロンティアの時代～」、記念講演会「北条氏の領国支配と村落の人々～」、学習講座「遺物に見るふじみ野の中世社会」、巡回企画展「ふじみ野1942」等を開催した。	地域の歴史を知ってもらうための情報発信により、市民に市の歴史を理解してもらえる機会を提供できた。小学校3・4年生対象とした「昔のくらしと昔の学校」の展示では、社会科授業の一環として有効活用を図れた。	歴史民俗資料館教育普及事業の一部 郷土資料館教育普及事業の一部
取組②	地域学習の推進	学校で地域の歴史や民具を活用した体験学習が行えるよう、学校文化財展示室を文化財展示ボランティアと協働で設置した。	学校文化財展示室を設置したさぎの森小・東台小、西原小での活用準備を進めた。駒西小では学校文化財展示室設置作業を開始した。これらの展示室では、5年生の国語にててくる展示物を実際に使用。地域の文化資源を有効活用した授業を推進した。	文化財展示室設置・活用事業の一部
取組③	地域の文化資源の有効活用	市指定文化財の回漕問屋福田屋（福岡河岸記念館）や国登録有形文化財の旧大井村役場等の文化資源を活用した特別公開を開催した。回漕問屋福田屋特別公開12回。旧大井村役場特別公開12回。やさしい日本語でめぐるまちさんぼツアー事業を実施。	特別公開と同時に資源を活かしたコンサート、古典芸能の公演、お話し会、裂き織、箒作り、水引の体験学習を開催し、文化財にふれる事業が行うことができた。参加者からも好評であった（アンケート回答）。まちさんぼツアー事業は外国人への情報発信につながった。	歴史民俗資料館教育普及事業の一部 郷土資料館教育普及事業の一部 資料館の協力による文化財保護係の文化財保護事業の一部
取組④				
取組⑤				

5. 評価

評価	
指標の達成状況	文化資料の有効な活用を図る目的で、平成29年度の改修工事で構造強化を行った福岡河岸記念館の三階建て離れや旧大井村役場を利用した体験学習、コンサート、古典芸能の公演を行った。
順調	また、学校の教室を利用した展示室を開設するにあたり、資料館の収蔵品である地域の民具や土器を有効活用した体験学習ができるように設置した。これらの活動は学校、保護者、子どもたち、参加したボランティアからの評価も好評で、継続して有効活用を図っていきたい。
行政資源の活用	また、市民ボランティアの協力を得てこれらの展示室開設準備や、福岡河岸記念館の特別公開を行うことができたことから、今後も文化財に対する市民の理解者を増やし、ボランティアの拡充を進めていきたい。
おおむね適切	平成31年4月1日施行の文化財保護法の改正では、地域の文化資源の保存と活用の推進がうたわれているので、引き続き文化資源の有効活用を推進していく。
取組の有効性	
おおむね有効	
施策の効果	
効果が得られている	

令和4年度事務事業評価シート

1. 事務事業の概要

事務事業名		文化財保護事業	前年度の方向性 継続	
重点プロジェクト				
施策体系	分野	09 教育 ～地域の絆で育む学びのまち～		
	施策	39 文化財・郷土資料 ー歴史文化の継承と文化財の活用を進めますー		
予算費目		一般会計 10教育費 04社会教育費 02文化財保護費		
所管部課		教育部 社会教育課	評価責任者	永倉秀雄
事務事業期間		平成17年度～	評価日	令和5年6月1日
個別計画 根拠法令・条例等		文化財保護法、埼玉県文化財保護条例、ふじみ野市文化財保護条例、ふじみ野市文化財保存事業補助金交付要綱、ふじみ野市文化財保護審議会に関する規則		
事務事業の内容	事務事業の目的	市域に残された文化財を後世まで永く伝えとともに市民が文化財への理解を深めるための一助とする。		
	事務事業の経緯	文化財保護法及び埼玉県文化財保護条例、ふじみ野市文化財保護条例（旧上福岡市では昭和36年制定、旧大井町では昭和41年制定）に基づいて事業を実施している。		
	事務事業の概要	文化財を次世代に継承していくため、文化財の保護・保存及び普及・啓発事業を実施する。 1 文化財保護審議会の開催（年4回）：補助金審査及び市指定文化財の諮問、答申を行う。 2 文化財保存事業補助金の交付：市指定文化財4件、文化財保護団体等4件を上限に補助金を交付する。 3 市指定文化財管理事業：民間・個人等管理の市指定文化財20件に対し管理謝礼を支払う。川崎遺跡古墳墳時代住居跡・復元大井戸・権現山古墳群については業務委託により清掃、修繕等を実施する。 4 福岡河岸記念館、旧大井村役場活用事業：文化財に触れる機会を作るために体験学習事業等を行う。 5 小学校文化財展示室設置：児童が文化財に親しむ環境を作るために順次各校に展示室を設置する。		
	令和4年度の主な取組	1 市指定文化財の管理：市指定総数57件の内20件に管理費謝礼、嚙子保存会2件に補助金を支出した。 2 文化財普及啓発：市広報「歴史さんぽ」連載。「文化財だより」4回発行。案内標柱1本の修繕等を実施した。 3 福岡河岸記念館、旧大井村役場活用事業：「福岡河岸記念館」「旧大井村役場」の活用事業として体験学習「はたおり」「ほうきづくり」「水引」等の事業を実施した。 4 小学校文化財展示室の設置：資料館と連携し、駒西小学校に文化財展示室の設置を実施した。 5 やさしい日本語でめぐるまちさんぽ事業：まちさんぽツアーガイド養成講座（講演会1回、養成講座7回）、ふじみ野魅力探検素敵トキメキ謎ときクイズラリー等を実施した。		

2. 事務事業費・人件費

（単位：千円）

【支出】		令和3年度 実績	令和4年度 実績	令和5年度 当初予算	
人件費	正規職員	従事人数(人)	1.35	2.00	2.00
		人件費	10,730	15,930	15,896
	再任用職員	従事人数(人)	0.00	0.00	0.00
		人件費	0	0	0
	会計年度任用職員※	従事人数(人)	0.00	0.00	0.00
人件費	0	0	0		
人件費計		10,730	15,930	15,896	
事業費	報酬※	172	84	252	
	賃金※	0	0	0	
	需用費	1,167	692	290	
	委託料	2,268	3,034	2,436	
	使用料及び賃借料	0	0	0	
	工事請負費	4,153	0	0	
	負担金、補助及び交付金	491	496	545	
	扶助費	0	0	0	
	その他事業費※	464	905	609	
支出合計		19,445	21,141	20,028	
財源内訳	特定財源	国庫支出金	0	0	0
		県支出金	0	1,900	0
		使用料・手数料	0	0	0
		分担金・負担金	0	0	0
		地方債	0	0	0
		基金	0	0	0
		その他	0	0	98
一般財源		19,445	19,241	19,930	
市民1人あたりの負担コスト(単位：円)		170	169	172	

※報酬、賃金、その他事業費には、会計年度任用職員の人件費も含まれています。

※千円未満を四捨五入しているため、合計が合わない箇所があります。

3. 事務事業の指標と実績

指標 1	指標名	指定・登録文化財の件数		
	説明	指定・登録文化財の所在数は、市の文化財保護行政の取組みの度合いを示すバロメーターである。最新の文化財指定は、平成31年1月23日指定の「ハケ遺跡古墳群1号墳出土埴輪」（人物埴輪7点）である。令和2年度に市指定文化財候補及び指定スケジュールを見直したため、令和3年度の目標値を59から57に修正した。		
活動	単位	件		
	年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	目標値	57	57	58
	実績値	57	57	
指標 2	指標名	民俗芸能調査及び民俗文化財の保存事業補助団体件数		
	説明	囃子などの市内に残る伝統芸能の現況調査や民俗芸能保持団体への事業補助を行った件数により民俗文化財保護の取り組みの指標とする。令和4年度もコロナによる活動の休止や祭礼の中止などにより事業を実施できなかった団体もあり、補助を行った団体数は2団体にとどまった。		
活動	単位	件		
	年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	目標値	6	6	6
	実績値	2	2	
指標 3	指標名			
	説明			
活動	単位			
	年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	目標値			
	実績値			

4. 事務事業の実施内容・効果

事務事業の 実施内容・効果	<p>1 文化財保護審議会：2回開催 文化財保存事業補助金交付の審議及び、権現山古墳群史跡の森内樹木のナラ枯れの対応、やさしい日本語でめぐるまちさんぽ事業の報告等を行った。</p> <p>2 市指定文化財の管理・保護 令和5年3月現在、市指定文化財総数57件である。そのうち20件について管理費謝礼を、4件について事業費の一部補助を行っている。今年度は市指定文化財「しだれ桜」の枯れ枝剪定・支柱設置修繕の補助を行った。</p> <p>3 文化財普及啓発 (1) やさしい日本語でめぐるまちさんぽ事業の実施（県重点政策連動事業補助金）。 (2) 市広報「歴史さんぽ」連載（資料館と隔月で担当）と「文化財だより」の刊行。 (3) 「地蔵院」の解説板、案内標柱の修繕を実施した。 (4) 埼玉県指定史跡権現山古墳群では児童対象の夏休み権現山探検を8月3日に実施した。新河岸川周辺の文化財と地形散策を3月25日は雨天により4月22日に延期した。</p> <p>4 福岡河岸記念館、旧大井村役場活用事業 平成28年度、29年度に地方創生拠点整備交付金により改修工事を実施した「福岡河岸記念館」「旧大井村役場」の活用事業として、はたおり・ほうきづくり・水引等の体験学習を実施し、文化財の活用を進めた。（福岡河岸記念館 4回 26人参加／旧大井村役場 3回 30人参加）また、旧大井村役場にて「最新出土品展」を開催した。10月15日～10月21日 59人</p> <p>5 小学校文化財展示室の設置：資料館と連携し、さぎの森小学校（平成30年度）、東台小学校（令和元年度）、西原小学校（令和3年度）に文化財展示室を開設したが、定期的な開室ができていないため、児童が繰り返し展示室に立ち寄れるような工夫、体制作りが課題である。令和4年度は駒西小学校で設置準備を行った。</p> <p>6 令和2年7月1日に寄附された旧回漕問屋江戸屋については、樹木剪定、維持管理業務委託を行った。令和4年度には庭園の測量調査と試掘調査を実施した。</p>
------------------	---

5. 今後の方向性

来年度の方向性	理由
継続	<p>先人たちが大切に保存、継承してきた文化財は市民の宝であり、新たな文化創造の土台になるもので、地域の文化財を次世代に継承していくための保存事業や情報の発信を継続していく必要がある。やさしい日本語でめぐるまち散歩ツアーガイドによる在住外国人等への新たな情報発信を実施する。また、福岡河岸記念館や旧大井村役場での体験事業や文化財ウォーキング等への参加をきっかけに、文化財や歴史に興味を持っていただくような流れを作ることが課題である。中長期的には、文化財行政及び資料館の管理運営に関する指針、計画（ふじみ野市文化財保存地域計画）の策定を進めるとともに、上福岡歴史民俗資料館や大井郷土資料館、福岡河岸記念館、旧大井村役場の整備を進める。各事業を進めるにあたり、文化財保護審議会委員や専門家の意見を参考にし、資料館・文化財ボランティアやまちさんぽツアーガイド、文化財保護団体、地域住民等と連携しながら文化財保護の理解者、協力者を増やしていく必要がある。</p>
中長期的方向性	
継続	

令和4年度事務事業評価シート

1. 事務事業の概要

事務事業名		埋蔵文化財調査事業	前年度の方向性 継続	
重点プロジェクト				
施策体系	分野	09 教育 ～地域の絆で育む学びのまち～		
	施策	39 文化財・郷土資料 ー歴史文化の継承と文化財の活用を進めますー		
予算費目		一般会計 10教育費 04社会教育費 02文化財保護費		
所管部課		教育部 社会教育課	評価責任者	永倉秀雄
事務事業期間		平成17年度～	評価日	令和5年6月1日
個別計画 根拠法令・条例等		文化財保護法、埼玉県文化財保護条例、ふじみ野市文化財保護条例、ふじみ野市埋蔵文化財発掘調査指導要綱		
事務事業の内容	事務事業の目的	市域に残る埋蔵文化財の記録保存を行う。遺跡情報システムを運用することにより、市民への普及及び窓口業務等に活用する。		
	事務事業の経緯	文化財保護法及び埼玉県文化財保護条例・ふじみ野市文化財保護条例（旧上福岡市では昭和36年制定、旧大井町では昭和41年制定）及びふじみ野市埋蔵文化財発掘調査指導要綱に基づいて事業に着手している。		
	事務事業の概要	1 文化財保護法に基づき、埋蔵文化財の記録保存調査を行う。 2 市民への埋蔵文化財の情報提供及び窓口業務対応のため、市内遺跡・文化財情報システムの運用。地図頒布、チラシ頒布等サービスの向上をはかる。報告書の刊行・展示公開等により調査成果の公開、出土品の活用を図る。		
	令和4年度の主な取組	1 埋蔵文化財包蔵地照会対応、発掘調査の実施。調査の流れを明記したチラシを窓口で配布。 2 調査報告書『市内遺跡群27』の刊行。 3 最新出土品展の開催、大井郷土資料館特別展や他博物館等への資料出品、貸出。 4 遺跡・文化財情報システムにおける発掘調査測量図の更新。 5 遺跡地図の有償頒布（1部300円）を実施。 6 出土遺物の再整理とあわせて、小・中学校社会科に対応した学習用遺物貸出キットを作成、活用として小学校3年生の総合的な学習を実施した。（国庫補助事業「地域の特色ある埋蔵文化財活用事業」）		

2. 事務事業費・人件費

(単位：千円)

【支出】		令和3年度 実績	令和4年度 実績	令和5年度 当初予算	
人件費	正規職員	従事人数(人)	1.40	1.30	31.00
		人件費	11,128	10,355	246,388
	再任用職員	従事人数(人)	0.00	0.00	0.00
		人件費	0	0	0
	会計年度任用職員※	従事人数(人)	9.02	11.02	11.02
	人件費	16,418	0	227,910	
人件費計		27,546	10,355	474,298	
事業費	報酬※	15,889	14,499	21,762	
	賃金※	0	0	0	
	需用費	1,203	1,018	4,132	
	委託料	1,118	1,053	9,240	
	使用料及び賃借料	5,733	3,724	9,193	
	工事請負費	0	0	5,546	
	負担金、補助及び交付金	0	0	0	
	扶助費	0	0	0	
その他事業費※	3,130	3,256	4,699		
支出合計		38,201	33,905	300,960	
財源内訳	特定財源	国庫支出金	4,830	4,920	4,500
		県支出金	1,665	1,710	2,250
		使用料・手数料	0	0	0
		分担金・負担金	0	0	0
		地方債	0	0	0
		基金	0	0	0
		その他	0	0	1,033
一般財源		31,706	27,275	293,177	
市民1人あたりの負担コスト(単位：円)		277	239	2,536	

※報酬、賃金、その他事業費には、会計年度任用職員の人件費も含まれています。

※千円未満を四捨五入しているため、合計が合わない箇所があります。

3. 事務事業の指標と実績

指標 1	指標名	開発に伴う周知の埋蔵文化財包蔵地への照会件数		
	説明	周知の埋蔵文化財包蔵地とその隣接地及び1,000㎡以上の大規模開発に伴い、施工主等の関係者からの問い合わせに対して行う。		
活動	単位	件		
	年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	目標値	1,200	1,200	1,200
	実績値	1,335	1,642	
指標 2	指標名	本調査・試掘・立会い件数		
	説明	埋蔵文化財保護の記録保存、埋蔵文化財包蔵地範囲確認のために本調査・試掘・立会いを実施。		
活動	単位	件		
	年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	目標値	50	50	50
	実績値	89	72	
指標 3	指標名	埋蔵文化財包蔵地等の情報公開と提供		
	説明	埋蔵文化財包蔵地の範囲や調査の履歴については遺跡情報システムで情報を発信しており、システムへのアクセス数が市民への情報公開と情報提供の指標になる。(令和3年度までは出土遺物等公開数を指標にしていたが、令和4年度から埋蔵文化財包蔵地等の情報公開と提供数に変更したため前年未実施。)		
活動	単位	回		
	年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	目標値	0	12,000	12,000
	実績値	4	11,183	

4. 事務事業の実施内容・効果

事務事業の 実施内容・効果	<p>開発に伴う事前照会、事前協議書・発掘の届出書の提出を受け、試掘調査及び個人住宅建設に伴う発掘調査、工事立会いなどを行っている。これらの調査成果を報告書・展示・情報システム等で公開することにより、文化財保護の啓発や発掘調査に対する理解へつなげることができる。</p> <p>1 発掘調査の実績概要（令和5年3月31日現在）</p> <p>①窓口・電話等による包蔵地照会は1,651件だった。照会時には必要に応じて調査の流れ等を記載したフローチャートを配布し、埋蔵文化財の重要性と調査の必要性、調査手順を周知することができた。</p> <p>②令和4年度の調査実績は、試掘調査が29件、本調査が4件、工事立会いが42件となった。</p> <p>③埋蔵文化財包蔵地を示した遺跡地図を、有償頒布（1部300円）し、普及に努めた。</p> <p>④令和4年度調査の報告書『市内遺跡群27』を刊行し、記録保存・調査成果の公開ができた。</p> <p>2 埋蔵文化財の活用</p> <p>①「最新出土品展」を大井郷土資料館と上福岡歴史民俗資料館、旧大井村役場で開催し、調査により出土した遺物を公開した。埋蔵文化財の重要性とその調査の必要性を周知することができた。</p> <p>②上福岡歴史民俗資料館企画展「板碑～鎌倉・室町びとの祈り～」等に板碑等を出品した。</p> <p>③市外の自治体や博物館等から、4件の資料借用依頼があり借用等を行った。</p> <p>④地理情報システムを利用して構築した「遺跡・文化財情報システム」については、令和4年度も更新分構築業務を業務委託し、埋蔵文化財調査成果・発掘調査測量図の情報を更新した。</p> <p>⑤出土遺物の活用を図るため、遺物の再整理と小学校社会科授業で活用することを想定した学習用遺物貸出キットを作成し、小学校3年生の総合的な学習の授業を実施した。（国庫補助事業「地域の特色ある埋蔵文化財活用事業」）</p>
------------------	---

5. 今後の方向性

来年度の方向性	理由
継続	文化財保護法に基づき、埋蔵文化財保護を目的として発掘調査事業を行っている。発掘調査の実施に当たっては工事主体者に対し十分な説明を行い、発掘調査及び開発が円滑に進むよう進めていく必要がある。また、調査報告については整理作業終了後、速やかに報告書として刊行し、紙媒体及びデータでの公開を行ない、遺物等の展示公開を行うことで、市民の埋蔵文化財への理解を深めていく。
中長期的方向性	
継続	

令和4年度事務事業評価シート

1. 事務事業の概要

事務事業名		権現山古墳群保存管理事業		前年度の方向性 継続	
重点プロジェクト					
施策体系	分野	09 教育 ～地域の絆で育む学びのまち～			
	施策	39 文化財・郷土資料 ー歴史文化の継承と文化財の活用を進めますー			
予算費目		一般会計 10教育費 04社会教育費 02文化財保護費			
所管部課		教育部 社会教育課	評価責任者	永倉秀雄	
事務事業期間		平成17年度～随行	評価日	令和5年6月1日	
個別計画 根拠法令・条例等		文化財保護法、埼玉県文化財保護条例、ふじみ野市文化財保護条例			
事務事業の内容	事務事業の目的	平成14年3月に作成した権現山墳墓群保存管理計画に基づき、埼玉県指定史跡権現山古墳群の保全及び活用を図る。			
	事務事業の経緯	文化財保護法及び埼玉県文化財保護条例、ふじみ野市文化財保護条例に基づいて事業に着手している。平成14年3月22日に県指定史跡に指定され、平成15年度から県費補助を受けて整備事業を実施し、平成22年11月1日から公有地部分の一般開放を実施している。			
	事務事業の概要	県指定史跡権現山古墳群の保存管理及び活用事業を実施する。 市内滝地区の新河岸川沿いにある権現山遺跡は、3世紀後半から4世紀初頭に造られ、前方後方墳1基と方墳11基の古墳からなっている。墳丘が現存する希少な初期古墳群であり、古墳文化の波及状況を示す上で学術的に重要な遺跡であるとして、遺構が良好に残存する6基の古墳と出土土器7点が平成14年3月22日に埼玉県指定史跡に指定された。 古墳に張り巡らされた溝から出土した壺や高坏は、葬送儀礼に用いられ、古墳の年代を判断する上で手がかりとなる。これらは現在、上福岡歴史民俗資料館に常設展示され、郷土史の一端を伝えている。			
	令和4年度の主な取組	1 管理計画に基づき、敷地内樹木17本を剪定した。 2 今年度もナラ枯れの被害を確認したため、7月25日から閉鎖し、病害虫被害木32本の伐採を行った。 3 園路沿いの木柵の腐朽が進んでいるため、令和3年度から3年計画で木柵更新に着手している。令和4年度は北口及び西口入口周辺の範囲で修繕を実施した。 4 活用事業として、夏休みに子ども対象の権現山探検「葉の標本づくり」を実施した。 5 令和3年度に発見された中世の地下式坑（貯蔵等）の発掘調査を実施した。			

2. 事務事業費・人件費

(単位：千円)

【支出】		令和3年度 実績	令和4年度 実績	令和5年度 当初予算
人件費	正規職員	従事人数(人)	0.70	0.60
		人件費	5,564	4,779
	再任用職員	従事人数(人)	0.00	0.00
		人件費	0	0
	会計年度任用職員※	従事人数(人)	0.00	0.00
	人件費	0	0	
人件費計		5,564	4,779	4,769
事業費	報酬※	0	0	0
	賃金※	0	0	0
	需用費	1,491	1,301	2,210
	委託料	3,607	5,611	7,341
	使用料及び賃借料	0	0	0
	工事請負費	0	0	0
	負担金、補助及び交付金	19	19	20
	扶助費	0	0	0
その他事業費※	0	0	0	
支出合計		10,681	11,710	14,340
財源内訳	特定財源	国庫支出金	0	0
		県支出金	0	643
		使用料・手数料	0	0
		分担金・負担金	0	0
		地方債	0	0
		基金	0	0
		その他	0	0
一般財源		10,681	11,067	13,169
市民1人あたりの負担コスト(単位：円)		93	97	114

※報酬、賃金、その他事業費には、会計年度任用職員の人件費も含まれています。

※千円未満を四捨五入しているため、合計が合わない箇所があります。

3. 事務事業の指標と実績

指標 1	指標名	遺跡及び緑地保全のための整備		
	説明	埼玉県指定史跡範囲及びその周辺を散策する遊歩道整備等の工事、説明板を設置した作業、管理作業の回数により、古墳群保護の指標とする。		
活動	単位	回		
	年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	目標値	3	3	3
	実績値	3	3	
指標 2	指標名	市民参加によるボランティア活動		
	説明	地域住民が実施している自主的な清掃、見回りや普及活動の回数をもって、史跡保存に対する市民参加の度合いを測る。		
活動	単位	回		
	年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	目標値	12	12	12
	実績値	12	3	
指標 3	指標名	見学会開催及び団体見学		
	説明	一般開放への入場者は現地でもカウントすることが困難なため、団体見学の申し出と市が主催する見学会及び展示等の回数をもって、市民・関係者による活用の度合いを算出する。		
活動	単位	回		
	年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	目標値	3	3	3
	実績値	2	0	

4. 事務事業の実施内容・効果

事務事業の 実施内容・効果	<p>1 公有地部分の一般開放（平成22年11月1日～） ナラ枯れの被害が確認されたため、7月25日から閉鎖した。</p> <p>2 管理及び教育普及事業 (1) 清掃・除草・剪定・補修等 ①指定文化財清掃委託事業として、草むしり、ゴミ拾い、落葉清掃を実施した。 ②ナラ枯れ被害木32本の伐採と、17本の樹木剪定を業者に委託し実施した。 ③古墳への立入禁止を示す木柵が、経年劣化による破損が増えてきたため、3か年事業として県の補助を受けて修繕を実施（2年目）。今年度は北口及び西口出入口のあたりにある木柵を修繕した。</p> <p>(2) カラーリーフレットの配布 平成24年2月から職員手作りによるリーフレットを作成・配布した。</p> <p>(3) 市民ボランティアとの協働活動 毎年、権現山古墳群の周知と市民の文化財愛護の意識を育てることを目的として、権現山クラブと協働し、落ち葉掃きを実施していたが、ナラ枯れによる被害で閉鎖したため、実施できなかった。</p> <p>(4) 夏休み権現山探検「葉の標本づくり」 日時 8月3日（水）9:30～12:30 内容 権現山古墳群や樹木の種類や生育についての説明と、葉の観察や葉脈標本づくりを行った。 講師 久津間文隆氏（ふじみ野市市文化財保護審議会委員） 参加者 10人</p> <p>(5) 新河岸川周辺の文化財と地形散策 ※3月25日（土）に実施する予定だったが、雨天により4月に延期（申込 12人） 内容 権現山古墳群のほか、西養寺、大杉神社、早船屋跡、新河岸川旧流路などを見学予定。 講師 久津間文隆氏（本市文化財保護審議会委員）</p>
------------------	---

5. 今後の方向性

来年度の方向性	理由
継続	<p>県指定史跡を含む権現山古墳群の古墳と自然を後世に伝えていくため、経年劣化による破損・汚損が発生している木柵や解説板等の計画的な整備や、樹木の管理・育成を実施していく。</p> <p>徳川家康鷹狩伝説のある市指定文化財権現山と県指定史跡権現山古墳群の周知のための活動を行い、より一層多くの方に足を運んでもらうよう公開や活用事業を展開していく。</p> <p>また、後世に伝えていくためには市民の文化財愛護意識が重要であるため、権現山古墳群の保存、公開、活用を通じて文化財ボランティアの更なる増員を図っていく。</p>
中長期的方向性	
継続	

令和4年度事務事業評価シート

1. 事務事業の概要

事務事業名		民間開発発掘調査事業		前年度の方向性 継続	
重点プロジェクト					
施策体系	分野	09 教育 ～地域の絆で育む学びのまち～			
	施策	39 文化財・郷土資料 -歴史文化の継承と文化財の活用を進めます-			
予算費目		一般会計 10教育費 04社会教育費 02文化財保護費			
所管部課		教育部 社会教育課	評価責任者	永倉秀雄	
事務事業期間		平成17年度～	評価日	令和5年6月1日	
個別計画 根拠法令・条例等		文化財保護法、埼玉県文化財保護条例、ふじみ野市文化財保護条例、ふじみ野市埋蔵文化財発掘調査指導要綱			
事務事業の内容	事務事業の目的	市域の開発工事に先立ち、埋蔵文化財の調査を実施することにより、文化財の記録保存を行う。			
	事務事業の経緯	文化財保護法及び埼玉県文化財保護条例・ふじみ野市文化財保護条例（旧上福岡市では昭和36年制定、旧大井町では昭和41年制定）、ふじみ野市埋蔵文化財発掘調査指導要綱に基づいて事業に着手している。			
	事務事業の概要	民間開発発掘調査事業は、業者・個人が建売・集合住宅建設、店舗建設など営利を目的とした開発を行う際に、試掘調査を経て市と関係者が協議し、開発行為により遺跡保存ができない場合に原因者負担と言う形で調査を実施する。その成果は報告書の作成・刊行により原因者に報告するとともに、遺構等の記録保存と後世への普及・伝達を図ることができる。 発掘・整理（遺物整理等及び報告書刊行）を複数年度で実施するため、発掘調査開始時に契約書を原因者と作成し、市が原因者から調査委託されるという形で契約を締結する。埋蔵文化財調査事業と同様に、市民・開発業者に埋蔵文化財の重要性とその必要性の周知と教育普及を行う。			
	令和4年度の主な取組	埋蔵文化財調査事業も含め遺跡跡蔵地内での調査件数が前年に比べると減っている。 令和5年3月31日現在、本年度提出された事前協議書96件、発掘届出110件の内、民間開発発掘調査を実施したのは2件だった。			

2. 事務事業費・人件費

(単位：千円)

【支出】		令和3年度 実績	令和4年度 実績	令和5年度 当初予算
人件費	正規職員	従事人数(人)	0.55	0.55
		人件費	4,372	4,381
	再任用職員	従事人数(人)	0.00	0.00
		人件費	0	0
	会計年度任用職員※	従事人数(人)	2.25	6.25
	人件費	3,935	0	
人件費計		8,307	4,381	125,212
事業費	報酬※	3,868	1,221	12,203
	賃金※	0	0	0
	需用費	154	79	1,059
	委託料	541	0	2,595
	使用料及び賃借料	897	523	5,119
	工事請負費	0	0	0
	負担金、補助及び交付金	0	0	0
	扶助費	0	0	0
その他事業費※	72	35	790	
支出合計		9,904	6,239	26,138
財源内訳	特定財源	国庫支出金	0	0
		県支出金	0	0
		使用料・手数料	0	0
		分担金・負担金	0	0
		地方債	0	0
		基金	0	0
		その他	0	0
一般財源	9,904	6,239	4,372	
市民1人あたりの負担コスト(単位：円)		87	55	38

※報酬、賃金、その他事業費には、会計年度任用職員の人件費も含まれています。

※千円未満を四捨五入しているため、合計が合わない箇所があります。

3. 事務事業の指標と実績

指標 1	指標名	民間開発発掘調査・整理の件数		
	説明	民間開発による文化財破壊を防ぎ、市民・関係者の理解・協力により文化財保護を達成できた指標として設定した。令和4年度実績が4件であった。		
活動	単位	件		
	年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	目標値	1	1	1
	実績値	7	4	
指標 2	指標名			
	説明			
	単位			
	年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	目標値			
	実績値			
指標 3	指標名			
	説明			
	単位			
	年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	目標値			
	実績値			

4. 事務事業の実施内容・効果

事務事業の 実施内容・効果	発掘調査の実績概要及び民間開発調査実施状況（令和5年3月31日現在）
	<p>1 令和4年度事前協議書と発掘の收受件数</p> <p>(1) 事前協議書 96件（そのうち令和3年度からの繰越 18件）</p> <p>【主な内訳】</p> <p>試掘調査実施 29件</p> <p>工事立会 34件（1,000㎡以上開発、埋蔵文化財隣接地含む）</p> <p>その他 17件（慎重工事、無届開発等）</p> <p>令和5年度への繰越 16件</p> <p>(2) 発掘届 110件（そのうち令和3年度からの繰越 16件）</p> <p>【主な内訳】</p> <p>発掘調査（工事等で埋蔵文化財が破壊される場合） 3件</p> <p>慎重工事（試掘調査のみの場合、本調査終了済等） 51件</p> <p>工事立会（埋蔵文化財への保護層が確保される場合等） 42件</p> <p>その他（無届開発） 1件</p> <p>令和5年度への繰越 13件</p> <p>2 実施状況</p> <p>本発掘調査 合計 4件（個人住宅1件、市事業1件、民間開発2件）</p> <p>(1) 民間開発発掘調査実施 合計2件</p> <p>①長宮遺跡第60地点（本発掘調査契約期間 令和4年5月16日～6月3日）</p> <p>②長宮遺跡第62地点（本発掘調査契約期間 令和5年1月10日～31日）</p>

5. 今後の方向性

来年度の方向性	理由
継続	文化財保護法に基づき、埋蔵文化財保護を目的として発掘調査事業を行っている。民間開発による発掘調査の費用は工事主体者側が負担することから、今後も工事主体者に対し十分な説明を行い、発掘調査及び開発が円滑に進むよう進めていく必要がある。
中長期的方向性	また、調査報告については整理作業終了後、速やかに報告書として刊行し、紙媒体及びデータでの公開を行っていく。
継続	

令和4年度事務事業評価シート

1. 事務事業の概要

事務事業名		歴史民俗資料館管理運営事業		前年度の方向性 継続	
重点プロジェクト					
施策体系	分野	09 教育 ～地域の絆で育む学びのまち～			
	施策	39 文化財・郷土資料 ー歴史文化の継承と文化財の活用を進めますー			
予算費目		一般会計 10教育費 04社会教育費 05資料館費			
所管部課		教育部 上福岡歴史民俗資料館	評価責任者	高崎 直成	
事務事業期間		平成17年度～	評価日	令和5年6月1日	
個別計画 根拠法令・条例等		ふじみ野市資料館条例、ふじみ野市資料館条例施行規則、ふじみ野市資料館運営協議会規則			
事務事業の内容	事務事業の目的	市民の郷土に関する教育、学術・文化の発展に寄与するため、旧上福岡地域の歴史、民俗を紹介することを通して、先人たちが育んできた数多くの郷土の文化遺産を収集・保存すると共に、これらの資料を多くの市民に知ってもらうよう展示公開するための施設整備、維持管理を行う。			
	事務事業の経緯	開館以来、市民の郷土に関する教育、学術及び文化の発展に寄与するため、歴史・民俗を紹介することを通して、先人が育んできた数多くの郷土の文化遺産を収集し・保存すると共に、これらの資料を多くの方々に知っていただくように展示公開するための施設の維持管理に務めてきた。			
	事務事業の概要	上福岡歴史民俗資料館の施設維持、管理及び開館業務			
	令和4年度の主な取組	資料館事業に市民や小中学校の意見を反映させるため資料館運営協議会を開催した。来館者の安全安心の観点から、良好な利用環境を整備するために資料館施設管理（機械警備・消防設備保守点検・自動ドア保守点検・塵芥収集・清掃・樹木剪定）を実施した。			

2. 事務事業費・人件費

(単位：千円)

【支出】		令和3年度 実績	令和4年度 実績	令和5年度 当初予算	
人件費	正規職員	従事人数(人)	1.70	1.90	2.10
		人件費	13,512	15,134	16,691
	再任用職員	従事人数(人)	0.00	0.10	0.00
		人件費	0	528	0
	会計年度任用職員※	従事人数(人)	0.00	0.00	0.00
	人件費	0	0	0	
人件費計		13,512	15,662	16,691	
事業費	報酬※	32	48	48	
	賃金※	0	0	0	
	需用費	1,275	5,882	1,364	
	委託料	1,435	1,379	970	
	使用料及び賃借料	31	53	72	
	工事請負費	0	0	0	
	負担金、補助及び交付金	24	24	24	
	扶助費	0	0	0	
その他事業費※	160	168	173		
支出合計		16,469	23,216	19,342	
財源内訳	特定財源	国庫支出金	0	0	0
		県支出金	0	0	0
		使用料・手数料	2	2	2
		分担金・負担金	0	0	0
		地方債	0	0	0
		基金	0	0	0
		その他	143	7	5
一般財源		16,324	23,207	19,335	
市民1人あたりの負担コスト(単位：円)		143	203	167	

※報酬、賃金、その他事業費には、会計年度任用職員の人件費も含まれています。

※千円未満を四捨五入しているため、合計が合わない箇所があります。

3. 事務事業の指標と実績

指標 1	指標名	入館者の拡大		
	説明	市民のニーズを反映した資料館運営を行い、地域密着型の社会教育施設として入館者の増加を目指す。 (集計中)		
活動	単位	人		
	年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	目標値	4,700	4,700	4,700
	実績値	4,291	3,175	
指標 2	指標名			
	説明			
	単位			
	年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	目標値	0	0	0
	実績値	0	0	
指標 3	指標名			
	説明			
	単位			
	年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	目標値			
	実績値			

4. 事務事業の実施内容・効果

事務事業の 実施内容・効果	<p>資料館事業に市民や小中学校の意見を反映させるため資料館運営協議会を設置している。委員は校長、小中学校社会科教諭、文化財保護審議委員、資料館活動団体、学識経験者など多方面の委員で構成されていることから幅の広い意見をいただいております、更なる運営向上につながるものと考えています。</p> <p>令和4年度は、7月・11月と3月の合計3回資料館運営協議会会議を開催し、事業計画及び事業報告の承認をいただくとともに、新型コロナウイルス対策を取りながらの各種事業の運営についてや、大井郷土資料館移転についてご意見を伺った。</p> <p>来館者の安全安心を視点に資料館施設管理（機械警備・消防設備保守点検・自動ドア保守点検・塵芥収集・清掃・樹木剪定）を実施した。また、快適な見学環境を整えるために、1階トイレの改修修繕を行うとともに、2階のエアコン修繕を行った。さらに、職員により館内2階ホールの塗装修繕を行った。</p> <p>以上のような施設の適切な運営を通して、多くの方々が安心して来館でき、快適に見学できるよう対応することにより、来館者の増加につながると考える。</p>
------------------	--

5. 今後の方向性

来年度の方向性	理由
継続	市民の郷土に関する教育、学術・文化の発展に寄与するため、旧上福岡地域の歴史、民俗を紹介することを通して、先人たちが育んできた数多くの郷土の文化遺産を収集・保存すると共に、これらの資料を多くの市民に知ってもらうよう展示公開し、地域への愛着を深めるものである。
中長期的方向性	
継続	

令和4年度事務事業評価シート

1. 事務事業の概要

事務事業名		歴史民俗資料館教育普及事業	前年度の方向性 継続	
重点プロジェクト				
施策体系	分野	09 教育 ～地域の絆で育む学びのまち～		
	施策	39 文化財・郷土資料 ー歴史文化の継承と文化財の活用を進めますー		
予算費目		一般会計 10教育費 04社会教育費 05資料館費		
所管部課		教育部 上福岡歴史民俗資料館	評価責任者	高崎 直成
事務事業期間		平成17年度～	評価日	令和5年6月1日
個別計画 根拠法令・条例等		博物館法、ふじみ野市資料館条例、ふじみ野市資料館条例施行規則、ふじみ野市資料館の資料に関する規則		
事務事業の内容	事務事業の目的	市民から寄贈された貴重な文化遺産を保存し、地域の特色を意識した資料収集を行い、資料の調査研究の成果を常設展示及び特別展・企画展、学習講座を実施することにより、紹介、活用する。また必要に応じて成果の一部を図録等の刊行物にまとめて展示成果の追体験が行えるようにする。		
	事務事業の経緯	歴史や郷土史、文化財への関心をもつ市民の学習ニーズに応えるために講座・体験学習及び特定のテーマを決めて展示会を実施している。内部講師の活用や資料館利用団体との協働事業の開催、特別展の主会場を大井郷土資料館とする事業分担等により経費削減を図るとともに、「ふじみ野市」の資料館としての役割の再構築を試みている。		
	事務事業の概要	市の歴史・民俗のなかでも、新河岸川を展示主題においた常設展示を行うとともに、テーマを設けて、実物資料や写真パネルなどで構成する特別展・企画展等を開催することで、これまでの調査研究の成果を紹介する。市民対象の学習講座・体験学習等の実施及び市民から提供された貴重な資料の収集整理を実施する。		
	令和4年度の主な取組	資料館友の会と協力して、成人向け藍染め体験学習1回、子ども対象体験学習を年3回、新型コロナウイルス感染症対策に注意しながら実施した。資料館通信は、81号、82号、83号の3回刊行し、展示や事業内容の周知、普及に努めた。小学校3・4年生向け「昔のくらしと昔の学校」は例年通り展示を行ったが、感染症対策として小学校児童の来館が困難な場合は、資料館・文化財ボランティアと協働して学校に赴いて出前学習を行った。特別展は中世の特別展の第2会場として収蔵品の刀の展示を行った。また特別展や大河ドラマに関連させて中世に関する企画展や、夏季は戦争関連展示、出土品展、そのほか随時ミニ展示を行った。一方で、寄贈資料の整理、台帳づくり及びデータ化作業を進めた。さらに感染症対策に配慮しつつ開館業務とともに、過去の企画展示の様子を撮影した動画を配信を続けた。		

2. 事務事業費・人件費

(単位：千円)

【支出】		令和3年度 実績	令和4年度 実績	令和5年度 当初予算	
人件費	正規職員	従事人数(人)	1.40	1.10	1.40
		人件費	11,128	8,762	11,128
	再任用職員	従事人数(人)	0.00	0.10	0.00
		人件費	0	528	0
	会計年度任用職員※	従事人数(人)	0.78	0.66	0.00
人件費	1,163	1,182	0		
人件費計		12,291	10,472	11,128	
事業費	報酬※	1,164	1,168	1,200	
	賃金※	0	0	0	
	需用費	139	148	148	
	委託料	0	0	0	
	使用料及び賃借料	0	0	0	
	工事請負費	0	0	0	
	負担金、補助及び交付金	0	0	0	
	扶助費	0	0	0	
その他事業費※	217	221	286		
支出合計		12,648	10,827	12,762	
財源内訳	特定財源	国庫支出金	0	0	0
		県支出金	0	0	0
		使用料・手数料	0	0	0
		分担金・負担金	0	0	0
		地方債	0	0	0
		基金	0	0	0
		その他	1,292	148	217
一般財源	11,356	10,679	12,545		
市民1人あたりの負担コスト(単位：円)		99	94	109	

※報酬、賃金、その他事業費には、会計年度任用職員の人件費も含まれています。

※千円未満を四捨五入しているため、合計が合わない箇所があります。

3. 事務事業の指標と実績

指標 1	指標名	記念館を含めた展示会の回数		
	説明	継続的な実施回数が評価の有効な指標と考えられる。また、普段非公開の河岸記念館「離れ」の特別公開日及び季節展示、ミニ展示を含む。		
活動	単位	回		
	年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	目標値	22	22	22
	実績値	24	25	
指標 2	指標名	講座、体験学習の満足度		
	説明	講座参加者のアンケートによる内容への満足度と開催時間の満足度（ちょうどよい）を指標とする。内容80%以上×時間80%以上を5点、70%以上×70%以上と85%以上×60%以上、時間不明の満足度70%以上～90%未満、時間の満足度75%以上で不満度20%未満を4点、70%×55%を3点、55%×70%を2点、55%×55%を1点とし、4点×7回で28を目標値とする。		
成果	単位	点		
	年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	目標値	2,400	28	28
	実績値	35	36	
指標 3	指標名	講座等の参加人数		
	説明	市民の郷土への理解と歴史・文化や文化財への関心を深めていただくために特別展記念講演会を中心に各種学習講座を開催している。参加人数は教育普及事業の効果を示す有効な指標になると考える。		
成果	単位	人		
	年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	目標値	850	850	850
	実績値	1,022	1,203	

4. 事務事業の実施内容・効果

事務事業の 実施内容・効果	<p>1 展示事業</p> <p>(1) 上福岡歴史民俗資料館企画展及び資料館特別展（会場：2階ホール） 企画展3回、特別展の上福岡会場として、収蔵品の刀の展示、「最新出土品展」を実施した。</p> <p>(2) ミニ展示 企画展の合間に小規模な資料展示等を3回実施。そのうち「昔のくらし、遊び、学校」として上野台小の体験学習受け入れ（10/11）</p> <p>2 教育普及事業</p> <p>(1) 学社連携事業として、博物館学芸員実習生受け入れ（2人）、小学校3・4年生対象社会科体験学習及び展示「昔のくらしと昔の学校」（会期：12/14～1/15）を実施し、福岡小の受け入れと、2月末日まで4校の出前授業と1校のライブ配信授業を行った。</p> <p>(2) 成人対象体験学習を年1回（藍染め）、子ども対象体験学習を年3回（拓本切り絵教室、郷土の伝承あそび「竹とんぼづくり」、ダンボールをつかったはたおり）を新型コロナウイルス感染症対策で人数を減らして行った。</p> <p>(3) 上福岡歴史民俗資料館友の会との相互協力、資料館文化財ボランティアの運営、出前講座等を実施した。</p> <p>(4) 資料館通信を3回刊行し、事業内容の周知、普及に努めた（後述）。</p> <p>(5) 企画展示の動画を学芸員実習の学生と協力して作成し、民具の使用法の動画を文化財資料館ボランティアと協力して作成、配信した。</p> <p>3 資料保存活動</p> <p>年間を通し寄贈資料の受け入れ、登録及び資料整理を行い、収蔵資料のデータベース化を進めた。生活困窮者就労準備支援事業の協力として収蔵資料のデータ入力作業を依頼した。</p> <p>上記1～2の事業を通して、郷土の歴史に対する理解を深める機会を提供するとともに、資料の公開及び活用を進めた。</p>
------------------	---

5. 今後の方向性

来年度の方向性	理由
継続	市民にとって最も身近に接することが多い常設展示に加えて、資料館と市民が一体となって実施する企画展、市民が講師になる体験学習や講座は、地域の歴史や文化を伝えるために必要不可欠な事業である。今後も「郷土ふじみ野」を市民に再認識・再発見してもらうための重要な機会として継続する。
中長期的方向性	
継続	

令和4年度事務事業評価シート

1. 事務事業の概要

事務事業名		文化財展示室設置・活用事業		前年度の方向性 拡充	
重点プロジェクト					
施策体系	分野	09 教育 ～地域の絆で育む学びのまち～			
	施策	39 文化財・郷土資料 ー歴史文化の継承と文化財の活用を進めますー			
予算費目		一般会計 10教育費 04社会教育費 05資料館費			
所管部課		教育部 上福岡歴史民俗資料館	評価責任者	高崎 直成	
事務事業期間		平成28年度～	評価日	令和5年6月1日	
個別計画 根拠法令・条例等		教育基本法、文化財保護法、学校教育法、社会教育法、博物館法、小学校学習指導要領 ふじみ野市資料館の資料に関する規則 ふじみ野市教育振興基本計画			
事務事業の内容	事務事業の目的	上福岡歴史民俗資料館や大井郷土資料館などで収集・保存してきた歴史資料は、地域にとって貴重な文化財である。そうした文化財を活用して、ふじみ野市、学校、地域住民が協働しながら、郷土ふじみ野を理解し郷土を愛する市民の育成をはかる。			
	事務事業の経緯	市内の小中学校には、30年ほど前から地域住民の協力によって収集された資料を活用した展示室がいくつか設置されている。教材への活用や地域の文化財としての関心や理解はあるが、資料の破損や解説の不備などから十分に活用されているとは言えない。そこで、体験学習を取り入れた展示を目指すため、展示室の再構築や新規設置に努めている。			
	事務事業の概要	市内各小中学校の教室や有効スペースに、既存の資料や上福岡歴史民俗資料館・大井郷土資料館などで収集・保存してきた資料を有効活用して文化財展示室の設置や文化財資料の展示をする。設置にあたっては学校、社会教育課（資料館・文化財保護係）、地域住民（以下文化財展示室ボランティア）が協働で行う。児童や教師が広く学習の場として活用するだけでなく、将来的には一般市民への公開・活用も視野に進める。			
	令和4年度の主な取組	さぎの森小学校では設置した文化財展示室を各学年の授業や3年生の体験学習などに使用している。その他に、東台小学校・西原小学校文化財展示室を設置しており、令和4年度は駒西小学校にて文化財展示室の設置作業を開始した。			

2. 事務事業費・人件費

(単位：千円)

【支出】		令和3年度 実績	令和4年度 実績	令和5年度 当初予算	
人件費	正規職員	従事人数(人)	1.10	0.70	0.70
		人件費	8,743	5,576	5,564
	再任用職員	従事人数(人)	0.00	0.10	0.00
		人件費	0	528	0
	会計年度任用職員※	従事人数(人)	0.00	0.00	0.00
	人件費	0	0	0	
人件費計		8,743	6,104	5,564	
事業費	報酬※	0	0	0	
	賃金※	0	0	0	
	需用費	101	101	102	
	委託料	0	0	0	
	使用料及び賃借料	0	0	0	
	工事請負費	0	0	0	
	負担金、補助及び交付金	0	0	0	
	扶助費	0	0	0	
その他事業費※	15	27	51		
支出合計		8,859	6,232	5,717	
財源内訳	特定財源	国庫支出金	0	0	0
		県支出金	0	0	0
		使用料・手数料	0	0	0
		分担金・負担金	0	0	0
		地方債	0	0	0
		基金	0	0	0
		その他	116	0	0
一般財源	8,743	6,232	5,717		
市民1人あたりの負担コスト(単位：円)		76	55	49	

※報酬、賃金、その他事業費には、会計年度任用職員の人件費も含まれています。

※千円未満を四捨五入しているため、合計が合わない箇所があります。

3. 事務事業の指標と実績

指標 1	指標名	文化財展示室・文化財展示設備の設置数		
	説明	文化財展示室・文化財展示設備の設置作業を実施した小・中学校数が学校、地域住民（文化財展示室ボランティア）、社会教育課（資料館など）による地域協働学校事業の指標となるため		
活動	単位	校		
	年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	目標値	1	1	0
	実績値	1	1	
指標 2	指標名	ボランティア参加人数(成果指標に移動)		
	説明	文化財展示室ボランティアへの参加人数が地域協働学校の活動や郷土ふじみ野を理解する市民の育成をはかる指標となるため		
活動	単位	人		
	年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	目標値	30	30	30
	実績値	26	48	
指標 3	指標名			
	説明			
	単位			
	年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	目標値			
	実績値			

4. 事務事業の実施内容・効果

事務事業の 実施内容・効果	<p>今年度の実施内容</p> <p>1 さぎの森小学校では、改修工事に伴い、一時移転作業を7/12(火)に実施し、仮復旧作業を9/20(火)に行い、2/2(木)の体験学習に向けて、1/24(火)と1/31(火)に縄文時代住居跡以外は、使用可能な状態に復旧した。文化財展示室の活用として各学年の授業と小学校3年生の昔のくらし体験学習を実施した。</p> <p>2 駒西小学校には既存の資料展示スペースをリニューアルし、学校と協議して5月～6月及び9月末から展示作業を実施中である。</p>
------------------	--

5. 今後の方向性

来年度の方向性	理由
継続	市内の各小学校に文化財展示室の設置を進めるとともに、文化財展示ボランティアや地域住民と協働で小学生への授業などへの活用と広く公開を目指していく。
中長期的方向性	
継続	

令和4年度事務事業評価シート

1. 事務事業の概要

事務事業名		郷土資料館管理運営事業		前年度の方向性 拡充	
重点プロジェクト					
施策体系	分野	09 教育 ～地域の絆で育む学びのまち～			
	施策	39 文化財・郷土資料 ー歴史文化の継承と文化財の活用を進めますー			
予算費目		一般会計 10教育費 04社会教育費 05資料館費			
所管部課		教育部 大井郷土資料館	評価責任者	高崎 直成	
事務事業期間		平成17年度～	評価日	令和5年6月1日	
個別計画 根拠法令・条例等		ふじみ野市資料館条例、ふじみ野市資料館条例施行規則、ふじみ野市資料館運営協議会規則			
事務事業の内容	事務事業の目的	資料館を通して、地域の歴史に密接した資料を収集・保存し、多くの市民に展示公開する。			
	事務事業の経緯	市民の学習・憩いの場として昭和63年に開館。当該管理運営業務は、常設展示室、郷土学習室、事務室、資料室の維持管理を主な業務としている。平成25年度からは学芸係長を配置し、展示、資料の問合せ等の対応を図っている。現在、大井郷土資料館常駐の職員は、管理係2名、学芸係3名である。			
	事務事業の概要	常設展示室は、開館当初に原始・古代から現代に至る時間の流れに沿った資料を展示するように設計されており、それぞれの時代にあった収蔵資料を随時展示している。また、特別展及び季節展示等を開催している。			
	令和4年度の主な取組	資料館については、多くのニーズに応えるためアンケート箱の設置や館内設備の改善につとめ、来館者が見学しやすい空間となるように努力した。旧大井村役場においては、令和4年度は、令和5年度の西文化施設の開館に伴い、移転先である旧大井村の修繕を実施し、郷土の資料の保存と教育普及活動の拠点・展示物の収蔵場所として利用する為、たたきを板の間にする改修を実施しました。その他に委託契約の維持管理業務に合わせて職員を立会わせ、建物内外の確認をおこない損傷が著しい箇所を事前に確認し、職員による応急措置対応を行ない文化財建造物の保全に努めた。また、令和5年度の新たな大井郷土資料館開館に向けて旧商工会館改修工事の設計業務を委託した。			

2. 事務事業費・人件費

(単位：千円)

【支出】		令和3年度 実績	令和4年度 実績	令和5年度 当初予算	
人件費	正規職員	従事人数(人)	1.70	1.30	1.90
		人件費	13,512	10,355	15,102
	再任用職員	従事人数(人)	0.00	0.10	0.00
		人件費	0	528	0
	会計年度任用職員※	従事人数(人)	0.00	0.00	0.00
人件費計		13,512	10,883	15,102	
事業費	報酬※	0	0	0	
	賃金※	0	0	0	
	需用費	331	1,038	10,979	
	委託料	340	4,174	4,685	
	使用料及び賃借料	42	43	178	
	工事請負費	0	0	0	
	負担金、補助及び交付金	0	0	0	
	扶助費	0	0	0	
その他事業費※	42	39	1,930		
支出合計		14,267	16,177	32,874	
財源内訳	特定財源	国庫支出金	0	0	0
		県支出金	0	0	0
		使用料・手数料	0	0	14
		分担金・負担金	0	0	0
		地方債	0	0	0
		基金	0	3,857	0
		その他	0	2	5
一般財源	14,267	12,318	32,855		
市民1人あたりの負担コスト(単位：円)		125	108	284	

※報酬、賃金、その他事業費には、会計年度任用職員の人件費も含まれています。

※千円未満を四捨五入しているため、合計が合わない箇所があります。

3. 事務事業の指標と実績

指標 1	指標名	入館者数の増加		
	説明	市民のニーズを反映した資料館運営を行い地域密着型の社会教育施設として入館者の増加を目指す。令和3年度からの入館者の増加は、図書館利用者数の10%を資料館入館者数としてカウントする方法から入館チャイムの職員カウントと図書館利用者数の中間値を入館者とする方法に切り替えたことによる。		
活動	単位	人		
	年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	目標値	8,000	8,200	8,200
	実績値	14,239	11,588	
指標 2	指標名			
	説明			
	単位			
	年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	目標値			
	実績値			
指標 3	指標名			
	説明			
	単位			
	年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	目標値			
	実績値			

4. 事務事業の実施内容・効果

事務事業の実施内容・効果	<p>大井郷土資料館では次の管理運営事業を実施した。</p> <p>(1) 資料館の建物は建築後30年以上が経過して老朽化している。事務室の設備や展示設備も傷んでおり、全体的に経年劣化が原因となり、蛍光灯の照明器具が一部使用できなくなった。施設管理を担当する大井図書館（指定管理者）と連携して、館内環境を改善し、展示資料観覧環境が向上した。</p> <p>(2) 国登録有形文化財旧大井村役場庁舎については、建築後80年以上が経過し、平成17年度・平成29年度に改修工事を実施したが、経年劣化は進行している。令和4年度においては、令和5年度の大井郷土資料館の移転先の一つである旧大井村の修繕を実施し、郷土の資料の保存と教育普及活動の拠点・展示物の収蔵場所として利用する為、たたきを板の間にする改修を実施した。</p> <p>また、令和5年度の新たな大井郷土資料館開館に向けて旧商工会館改修工事の設計業務を委託した。その他に委託契約の維持管理業務に合わせて職員を立会わせ、建物内外の確認をおこない損傷が著しい箇所を事前に確認し、職員による応急措置対応を行ない文化財建造物の保護に努めた。これらの改善により、来館者が文化財に親しみながら気持ちよく使用していただく環境が整った。</p>
--------------	--

5. 今後の方向性

来年度の方向性	理由
継続	<p>常設展示室は、開館当初に原始・古代から現代に至る時間の流れに沿った資料を展示するように設計されており、それぞれの時代にあった収蔵資料を随時展示している。また、特別展及び季節展示等を開催している。これらは地域の歴史や暮らしを理解するにあたり重要な役割を持つと共に、地域への愛着を深めるものである。</p>
中長期的方向性	<p>旧大井村役場は国登録有形文化財として貴重な建造物であるとともに、市民団体の活用スペースとして整備されてきたので、建造物の文化財としての保護と活用を両立させた管理が必要になっている。</p>
継続	

令和4年度事務事業評価シート

1. 事務事業の概要

事務事業名		収蔵資料整理事務	前年度の方向性 継続	
重点プロジェクト				
施策体系	分野	09 教育 ～地域の絆で育む学びのまち～		
	施策	39 文化財・郷土資料 ー歴史文化の継承と文化財の活用を進めますー		
予算費目		一般会計 10教育費 04社会教育費 05資料館費		
所管部課		教育部 大井郷土資料館	評価責任者	高崎 直成
事務事業期間		平成17年度～	評価日	令和5年6月1日
個別計画 根拠法令・条例等		博物館法、ふじみ野市資料館条例、ふじみ野市資料館条例施行規則、ふじみ野市資料館の資料に関する規則		
事務事業の内容	事務事業の目的	郷土の歴史に関わる資料を収集し、それを展示等の教育普及事業でも活用できるように整理していく。		
	事務事業の経緯	ふじみ野市資料館条例第3条に資料館の業務の一つとして「市の歴史、考古、民俗等に関する資料の収集、保存及び調査研究に関すること」が謳われている。これを受けて資料館は開館以来資料の収集、保存及び調査を行っている。		
	事務事業の概要	大島家収蔵資料等の諸家文書の整理を行う。 収集資料を紙の台帳に手書きで登録しているが、台帳整理と資料活用の効率化を図るため、収蔵事業のデータ化を進める。		
	令和4年度の主な取組	通年で収蔵資料についてアクセスへのデータ化を進めており、これまでの紙台帳に添付していた資料の白黒写真を順次デジタルカメラで再撮影及び計測等を行い、令和4年度は計744点をデータベース化した。大島家収蔵資料の目録原稿を完成した。		

2. 事務事業費・人件費

(単位：千円)

【支出】		令和3年度 実績	令和4年度 実績	令和5年度 当初予算	
人件費	正規職員	従事人数(人)	1.20	1.10	0.90
		人件費	9,538	8,762	7,154
	再任用職員	従事人数(人)	0.00	0.10	0.00
		人件費	0	528	0
	会計年度任用職員※	従事人数(人)	1.27	1.27	1.27
		人件費	2,749	2,424	2,516
人件費計		12,287	11,714	9,670	
事業費	報酬※	2,367	2,417	3,827	
	賃金※	0	0	0	
	需用費	80	74	811	
	委託料	0	0	0	
	使用料及び賃借料	0	0	295	
	工事請負費	0	0	0	
	負担金、補助及び交付金	0	0	0	
	扶助費	0	0	0	
その他事業費※	132	182	317		
支出合計		12,117	11,963	12,404	
財源内訳	特定財源	国庫支出金	0	0	0
		県支出金	0	0	0
		使用料・手数料	0	0	0
		分担金・負担金	0	0	0
		地方債	0	0	0
		基金	0	0	0
		その他	0	0	0
一般財源		12,117	11,963	12,404	
市民1人あたりの負担コスト(単位：円)		106	105	107	

※報酬、賃金、その他事業費には、会計年度任用職員の人件費も含まれています。

※千円未満を四捨五入しているため、合計が合わない箇所があります。

3. 事務事業の指標と実績

指標 1	指標名	収蔵資料のデータベース化		
	説明	資料検索・利活用の迅速化を図るため、紙の台帳を年度ごとにデータベース化した資料点数を指標とする。		
活動	単位	点		
	年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	目標値	400	400	400
	実績値	644	744	
指標 2	指標名	大島慶一郎家寄贈資料分類整理		
	説明	資料整理・公開・目録刊行に向けて仮目録化作業を行った資料点数が指標となるため。令和4年度で目録原稿を完成した。		
活動	単位	点		
	年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	目標値	0	0	0
	実績値	390	130	
指標 3	指標名			
	説明			
	単位			
	年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	目標値	0	0	0
	実績値	0	0	

4. 事務事業の実施内容・効果

事務事業の 実施内容・効果	<p>1 文化財資料の収集及び収蔵資料の整理事業 地域の歴史・文化を明らかにするため、文化財資料の収集・調査を行った。令和4年度も貴重な民俗資料及び歴史資料を寄贈していただき、寄贈された資料は台帳に登録し、収蔵庫に大切に保存した。さらに資料の社会教育、学校教育の場での活用を図るため、分類整理を行った上で目録化を進めた。郷土に残る伝承や技術など無形の文化財についても調査、記録化を行い将来への継承を図った。また、資料の調査や整理の成果は、一部資料館通信等でも紹介した。 (1)大井郷土資料館令和4年度受け入れ資料、歴史・民俗資料7点。</p> <p>2 データベース化・デジタル化の推進 紙ベースによる従来からの資料管理では、年々増加する収蔵資料の効率的な対応が難しくなってきた。そこで、収蔵資料台帳のデータベース化を進め、資料に関するデータの修正等を簡易にし、あわせて検索の迅速化など資料の管理と活用の能率化を目指した。令和4年度744点</p> <p>3 大島家文書分類・整理・目録化 戦後大井地域の歴史、特に地域医療活動を知る上で重要な大島家文書の整理作業を実施している。整理の完了した分は、平成25年度に先行して『大井医院・大島慶一郎関係資料目録Ⅰ』として刊行した。令和4年度は全資料の仮目録を完成し、令和4年度の総合資料目録刊行に向けて所在と内容の確認を行った。令和4年度については、総合資料目録刊行に向けて、約520箱の資料突合作業をすべて完了。目録原稿の作成を完了した。</p> <p>4 文化財展示室設置に向けた資料整理と保管スペースの確保 社会教育課文化財保護係と連携して実施している市内小中学校における文化財展示室設置に向けて、資料館収蔵庫等の資料整理を実施した。</p> <p>5 資料館移転に伴う収蔵資料及び蔵書の整理 資料館の大規模改修及び移転に向けて、蔵書については重複しているものを精査、廃棄し、民具等の収蔵資料については精査している。</p>
------------------	---

5. 今後の方向性

来年度の方向性	理由
継続	収蔵資料の整理分類と登録、収蔵、保管は資料館の存在意義に関わる事業である。収蔵資料の整理と保管は、市民への公開（展示）をはじめとする資料の利活用の推進と郷土の歴史・民俗の掘り起こしの基礎となるものであり、今後も継続して推進する。
中長期的方向性	
継続	

令和4年度事務事業評価シート

1. 事務事業の概要

事務事業名		郷土資料館教育普及事業		前年度の方向性 拡充	
重点プロジェクト					
施策体系	分野	09 教育 ～地域の絆で育む学びのまち～			
	施策	39 文化財・郷土資料 ー歴史文化の継承と文化財の活用を進めますー			
予算費目		一般会計 10教育費 04社会教育費 05資料館費			
所管部課		教育部 大井郷土資料館	評価責任者	高崎 直成	
事務事業期間		平成17年度～	評価日	令和5年6月1日	
個別計画 根拠法令・条例等		博物館法、ふじみ野市資料館条例、ふじみ野市資料館条例施行規則			
事務事業の内容	事務事業の目的	地域に関連した収集資料を基に事業展開し、市民に展示すると共に、子どもには体験を通して郷土に対する理解・関心を深めてもらう。			
	事務事業の経緯	ふじみ野市資料館条例第3条第2号には、館の業務として資料の展示及び知識の普及並びに啓発に関することが謳われている。当該事業は、これに基づいて実施しているものである。			
	事務事業の概要	一般〔大人〕向けの事業として古文書講座や展示会等を実施し、子ども対象の事業は藍染教室、縄文土器作り教室の他、上福岡歴史民俗資料館との共通事業で社会科体験学習や郷土の伝承あそびを実施した。なお、特別展は上福岡歴史民俗資料館と隔年で開催し、平成28年度からは展示スペースの問題から大井郷土資料館を主会場としていたが、令和元年度から上福岡歴史民俗資料館でも一部展示を実施している。展示成果を図録としてまとめて作成し頒布を行っている。また、資料館文化財ボランティアを運営している。			
	令和4年度の主な取組	展示は特別展「武士の群像～ふじみ野の中世 フロンティアの時代～」、巡回企画展「ふじみ野1942～戦果にほろろされた人々～」 「最新出土品展」、「昔のくらしと昔の学校」、ミニ展示・季節展示11回を開催した。特別展記念講演会「北条氏の領国支配と村落の人々 ～戦国時代から江戸時代へ～」、一般向け学習講座「古文書講座」を開催した。小学校3・4年生対象「昔のくらしと昔の学校」は出前授業4校、来館3校実施した。旧大井村役場活用事業として地域の方々への開放としてピンチン体操を行った。資料館文化財ボランティアの連絡会議を開催し、ボランティアの育成と協働した活動を行った。			

2. 事務事業費・人件費

(単位：千円)

【支出】		令和3年度 実績	令和4年度 実績	令和5年度 当初予算	
人件費	正規職員	従事人数(人)	1.40	1.20	1.30
		人件費	11,128	9,558	10,333
	再任用職員	従事人数(人)	0.00	0.10	0.00
		人件費	0	528	0
	会計年度任用職員※	従事人数(人)	0.00	0.00	0.00
	人件費	0	0	0	
人件費計		11,128	10,086	10,333	
事業費	報酬※	0	0	0	
	賃金※	0	0	0	
	需用費	659	723	799	
	委託料	377	496	2,219	
	使用料及び賃借料	57	43	350	
	工事請負費	0	0	0	
	負担金、補助及び交付金	0	0	0	
	扶助費	0	0	0	
その他事業費※	198	203	1,662		
支出合計		12,419	11,551	15,363	
財源内訳	特定財源	国庫支出金	0	0	0
		県支出金	0	0	0
		使用料・手数料	0	0	0
		分担金・負担金	0	0	0
		地方債	0	0	0
		基金	0	0	0
		その他	0	123	60
一般財源		12,419	11,428	15,303	
市民1人あたりの負担コスト(単位：円)		109	100	132	

※報酬、賃金、その他事業費には、会計年度任用職員の人件費も含まれています。

※千円未満を四捨五入しているため、合計が合わない箇所があります。

3. 事務事業の指標と実績

指標 1	指標名	展示会の回数		
	説明	継続的な実施回数が評価の有効な指標と考えるため		
活動	単位	回		
	年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	目標値	10	10	10
	実績値	16	12	
指標 2	指標名	展示会への来場者数		
	説明	市民の郷土への理解と歴史・文化、歴史資料に対する意識の高揚を図る指標となるため。 R5年度：ミニ展示も含め展示会開催期間の入館者数を集計した。（開催期間が重複する展示があるため、個々の展示の入館者数の累計では重複が生じるため）		
成果	単位	人		
	年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	目標値	5,300	5,300	5,300
	実績値	7,121	10,356	
指標 3	指標名	学習講座の参加人数		
	説明	市民の郷土への理解と歴史・文化や文化財への関心を深めていただくために特別展記念講演会を中心に各種学習講座を開催している。参加人数は教育普及事業の効果を示す有効な指標になると考える。		
成果	単位	人		
	年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	目標値	850	850	850
	実績値	552	869	

4. 事務事業の実施内容・効果

事務事業の 実施内容・効果	<p>原始古代から現代を包括する常設展示の他に、下記の事業による教育普及を実施した。</p> <p>1 展示事業</p> <p>(1) 特別展「武士の群像～ふじみ野の中世 フロンティアの時代～」 会期10/25（火）～12/11（日） 会場：郷土学習室・常設展示室、上福岡歴史民俗資料館、福岡河岸記念館 ①記念講演会 「北条氏の領国支配と村落の人々 ～戦国時代から江戸時代へ～」 11/20、39人</p> <p>(2) 企画展 ①巡回企画展「最新出土品展 古代中世のふじみ野」7/16（土）～8/21（日） 「ふじみ野1942～戦果にほんろうされた人々～」8/27（土）～9/19（火）</p> <p>(3) 季節展示・ミニ展示 ①季節展示 3回。②ミニ展示 8回</p> <p>2 教育普及事業</p> <p>(1) 博物館学芸員実習 (2) 子ども対象体験学習 (3) 大人向け講座 4回 (4) 資料館文化財ボランティアの運営</p> <p>3 資料の貸し出し 1件の資料の貸し出しを行った。</p> <p>4 旧大井村役場展示・活用事業 ピンシャン体操、ライアーコンサート&ワークショップなどを実施。</p> <p>5 産休代替等に係る会計年度任用職員の人件費について 12月15日付で再任用職員1名が退職 総額429千円×人数配分（退職職員の人数配分適用）1/3＝143千円</p>

5. 今後の方向性

来年度の方向性	理由
継続	市民にとって最も身近に接することが多い常設展示に加えて、資料館と市民が一体となって実施する特別展、市民が講師になる体験学習や講座は、地域の歴史や文化を伝えるために必要不可欠な事業である。今年度の特別展「武士の群像～ふじみ野の中世 フロンティアの時代～」は好評であり、多くの見学者を得た。鎌倉から戦国時代にかけてをふじみ野市に残されている文書、資料を中心にふじみ野市周辺の武士と農民たちの動向を中心に、日本史の大きな流れと地域の歴史を結び付けたわかりやすい展示を実現できた。今後も「郷土ふじみ野」を市民に再認識・再発見してもらうための重要な機会として継続していく。
中長期的方向性	
継続	

令和4年度事務事業評価シート

1. 事務事業の概要

事務事業名		福岡河岸記念館管理運営事業		前年度の方向性 継続	
重点プロジェクト					
施策体系	分野	09 教育 ～地域の絆で育む学びのまち～			
	施策	39 文化財・郷土資料 ー歴史文化の継承と文化財の活用を進めますー			
予算費目		一般会計 10教育費 04社会教育費 05資料館費			
所管部課		教育部 福岡河岸記念館	評価責任者	高崎 直成	
事務事業期間		平成17年度～	評価日	令和5年6月1日	
個別計画 根拠法令・条例等		ふじみ野市立福岡河岸記念館条例、ふじみ野市立福岡河岸記念館条例施行規則			
事務事業の内容	事務事業の目的	明治期に建築され、当時の商家形態がうかがわれる建築範例として貴重な建物であるため、市有形文化財として指定を受けた建物を市民に公開し、歴史や文化を知ってもらう。			
	事務事業の経緯	昭和62年、旧福田屋敷地及び指定文化財である建物の所有者から寄贈を受け、復元整備を行い平成8年に福岡河岸記念館として開館した。			
	事務事業の概要	歴史的建造物である回漕問屋「旧福田屋」を復元し、郷土の歴史と地域の文化について学ぶ場として公開、平成30年度からは「離れ」の2、3階を月1～2回程度の割合で特別公開している。文化財建造物の保護と良好な利用環境を保全するために施設修繕を行っている。			
	令和4年度の主な取組	例年展開している落語・講談などの特別講座を3回、その他子ども対象事業やフォトコンテストを開催した。また、特別展の第3会場として剣道・武士関係資料の展示を行い、市内外からの来館者の増加を図った。 年間で特別公開を12回、無料公開を1回実施した。文化・スポーツ振興課のコンサートの会場として協力した。なお、地域と一体となった取り組みを充実するため地域で実施されている「福岡河岸まつり」には例年協力していたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため令和4年度も中止になった。			

2. 事務事業費・人件費

(単位：千円)

【支出】		令和3年度 実績	令和4年度 実績	令和5年度 当初予算	
人件費	正規職員	従事人数(人)	1.40	1.50	1.70
		人件費	11,128	11,948	13,512
	再任用職員	従事人数(人)	0.00	0.10	0.00
		人件費	0	528	0
	会計年度任用職員※	従事人数(人)	0.00	0.00	0.00
	人件費	0	0	0	
人件費計		11,128	12,476	13,512	
事業費	報酬※	0	0	0	
	賃金※	0	0	0	
	需用費	396	1,645	365	
	委託料	4,506	4,623	50	
	使用料及び賃借料	770	770	770	
	工事請負費	0	0	0	
	負担金、補助及び交付金	0	0	0	
	扶助費	0	0	0	
その他事業費※	359	711	498		
支出合計		17,159	20,225	15,195	
財源内訳	特定財源	国庫支出金	0	0	0
		県支出金	0	0	0
		使用料・手数料	221	188	186
		分担金・負担金	0	0	0
		地方債	0	0	0
		基金	0	0	0
		その他	0	0	0
一般財源		16,938	20,037	15,009	
市民1人あたりの負担コスト(単位：円)		148	176	130	

※報酬、賃金、その他事業費には、会計年度任用職員の人件費も含まれています。

※千円未満を四捨五入しているため、合計が合わない箇所があります。

3. 事務事業の指標と実績

指標 1	指標名	入館者数		
	説明	「離れ」の特別公開日を土日・祝日等に公開すると共に、市報やホームページ、市内の学校などに宣伝を行い記念館での事業の展開（伝承遊び等）を図る。（集計中）		
活動	単位	人		
	年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	目標値	3,100	3,100	3,200
	実績値	2,784	2,545	
指標 2	指標名	特別公開・特別講座・イベント等の開催による入館者の増（目標値未入力）		
	説明	入館者の少ない時期に講座、特別公開等を実施することにより、新たな入館者の増加を目指す。また、定期的な特別公開においてボランティアによる解説を取り入れること等により更なる増加を図る。		
成果	単位	人		
	年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	目標値	750	750	800
	実績値	434	774	
指標 3	指標名			
	説明			
	単位			
	年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
	目標値			
	実績値			

4. 事務事業の実施内容・効果

事務事業の 実施内容・効果	<p>令和4年度は、ガイドツアーは新型コロナウイルス感染拡大防止のために実施しなかったが特別公開により離れ公開を12回実施した。</p> <p>例年展開している特別講座などの事業は、「落語」2回、「講談」1回の開催となった。</p> <p>また、特別展の第3会場として刀剣・武士関係資料の展示を行い、市内外からの来館者の増加を図った。</p> <p>1 展示事業 ※各事業集計中 (1) 五月人形展 4月22日（金）～5月19日（木）327人 (2) 特別展「武士の群像」第3会場 10月25日（火）～12月11日（日）466人 (3) 福岡河岸記念館フォトコンテスト作品展 1月7日（土）～3月5日（日）362人 (4) ひな人形展 2月23日（木）～3月5日（日）61人</p> <p>2 講座・体験事業 (1) 古民家で聞く落語 6/19(土)25人 11/23(水)17人 (2) 古民家で聞く講談 3/18(土) 16人 (3) はたおり「裂織りで作る小敷物」7/9(土)6人、8/20(土)4人、9/10(土)6人</p> <p>3 施設修繕 経年劣化による建物損傷対処のために、門扉・板塀修繕を実施した。また、多目的トイレの自動ドアが経年劣化による作動不良が生じ、全国自動ドア産業振興会に申請して無償にて自動ドアの寄附採納を受けた。</p>
------------------	--

5. 今後の方向性

来年度の方向性	理由
継続	江戸時代から明治時代中ごろにかけて新河岸川舟運で栄えた福岡河岸には、往時の様子を伝える貴重な文化遺産が残されている。本館は、市指定文化財回漕問屋福田屋の建物を保存・公開して、舟運と問屋の暮らしを展示している。明治初期の船問屋を再現しており郷土の歴史と文化を理解し地域への愛着を深めるものである。建築後150年経過しており、今後も永く後世に伝えるために、絶えず損傷個所の有無を点検し、文化財保護と快適な利用環境を両立させて整える必要がある。さらに、より多くの方々に利用していただくために、バリアフリー化に向けて検討する必要がある。
中長期的方向性	
継続	